

1. 学校全体の授業改善推進に向けた方策

①大泉西小学校の年間指導計画の変更

⇒単元ごとの内容については、前年度の9割の授業時数で終わらせ、残りの1割を『復習タイム』として既習事項の定着の時間に割り当てる。

②算数の『学習ルール』の統一

⇒ノート書き方および筆算の仕方を全校で統一した。また、高学年では既習事項をカードにまとめ、いつでも振り返ることができるようにする。

③週1回の『朝算数タイム』の設定

⇒週に1度、木曜日の朝に全校で『東京ベーシックドリル』を活用し、前年度の算数の復習を行う。

④教員の指導力向上に向けた『全学年研究授業』の実施

⇒文部科学省の教師力向上事業『初歩的な授業スキル：測定指標』に基づいた採点方法を活用し、研究授業を通じた全教員の授業向上を図る。

2. 各学年の課題分析と授業改善策

	課題分析	授業改善策
1年	- 意味や考え方を問われる問題の正答率が低い。 - 数の構成について、定着していない。	- 具体物を活用して視覚で理解できるようにしたり、考え方を説明する活動を取り入れたりする。朝学習の時間に、文章問題を解き、問題の意味を理解し、解き方に慣れさせていく。 - 授業開始の冒頭、フラッシュカードや百玉そろばんを活用して定着を図る。
2年	- 繰り上がりのあるたし算、繰り下がりのあるひき算が定着していない。 - 単位（長さ、水のかさ）の表し方の正答率が低い。 - 時刻と時間の定着に課題が見られる。	- 毎時間、授業のはじめに「小テスト」（4問）を行い、定着を図る。（2学期前半） - 授業の開始時に基礎問題のプリントに取り組む。（2学期半ば～） - 日常で、時刻を確認したり、声掛けをしながら時間を意識する機会を徹底させる。（教室の時計を使用し、ペアで今の時刻を言い合う等）
3年	- 基本的な計算技能として、「2桁－2桁＝2桁」（繰り下がり1回）や「3桁－2桁＝2桁」の正答率が60％程度と低く、課題が見られる。 - 全国学力調査・学習状況調査より、問題解決や論理的思考、自分の考えを説明する能力に課題が見られる。	- 基礎、基本の徹底と確実な定着を図る。そのために、授業の導入で小テスト等を活用し、単元の土台となる知識が定着しているかを把握する。また、算数少人数を含め、復習が必要な児童を抽出し、授業内外で補習していく。 - 個別最適化された学習支援の強化を行う。習熟度別コースに応じた説明やグループでの課題を扱い、論理的思考や自分の考えを説明する能力の向上を図る。

4 年	・かけ算領域では、九九が定着していないことや筆算の手順の理解不足による誤答が多くみられる。また、文章題での立式の難しさも課題としてみられる。 ・小数領域でも、誤答が多く、課題が見られる。小数点の位置をそろえたり、整数とのつながり（0.1 や 0.01 の意味）を理解していない可能性がある。	・ゲーム形式の九九や筆算手順の確認や、日常生活に即した応用問題を授業の導入で行う。また、式と絵を結び付ける板書を多く行い、式の「意味」を重視する指導を行う。 ・小数のたし算ひき算の横式から、自力で筆算式を書く活動を定期的に行う。筆算式を書く際に、小数点がそろっているか確認する習慣をつける。長さや重さを測るなどの具体的な場面を活用して小数のたし算ひき算を扱う。
5 年	・数と計算領域においては、小数の四則計算の正答率が低い。 ・図形の領域においては、面積の問題の正答率が低い。特に複雑な形をした面積を求める問題の正答率が低い。 ・変わり方調べでは、変化の規則を見つめて式に表す問題の正答率が低い。	・児童の実態に応じた小数の四則計算のプリントを活用し、各単元のまとめの際に、定期的に取り組む。 ・面積の公式を定着させるために、定期的に復習の時間を設ける。複雑な図形は色分けして示し、求めたい部分がどの図形を基にした計算なのか理解できるようにする。 ・表の縦と横の数値に注目し、変化を読み取れるように指導を行う。
6 年	・割合領域に課題が見られ、文章から「比べられる量」と「もとにする量」を見付けることが難しい。 ・速さの領域においては、原理原則を理解できていない児童が一定数いる。	・文章問題から立式する過程を授業で確認するとともに、授業内だけでなく、算数タイムや放課後に、割合や速さに関する問題等に取り組む時間を設ける。 ・既習事項を一覧にしたカード集を配付し、筆箱の中に入れ、常に確認できるようにする。